



第 4 分 科 会

高齢期を安心して、輝いて、自分らしく生きるために
健康・年金・遺言・お墓

助言者 徳田五十六

司 会 広瀬ミサ子

記 録 遠藤淑子



自己紹介をかねて助言者より問題提起をしていただきました。

人間らしく生きるとは・・・

東日本大震災と福島原発事故が起きて、結婚する人が増え、お墓を買う人も増えている。家族や隣人、友人との人間関係を深めていく必要性を強く感じている。

スウェーデン等北欧三ヶ国福祉国家では税金は 60%と高いが、経済的心配はいっさいない。年金の少ない人には最低保障年金が支給される。

自然エネルギー産業・IT 産業・等人間の生活を向上させる産業構造へ。

何を大事にして生きるのか。人間らしく生きる中味を考える時期ではないか。

常に正義を主張し、貧乏でも胸を張って生きる。生活保護を受けていても堂々と信念を持って生きること。

安心して暮らせる地域づくり・・・地域経済循環を作る。

長野県栄村では地域で経済循環ができています。

ヘルパーの育成・病院から自宅介護でくらすると明るく元気になる。

全国一介護保険料が安い。

北九州では自宅と宅老所を行ったり来たりする施設ができた。

介護保険を使ってそういう施設をつくる運動をしていくこと。

参加者の発言 意見・質問

A・夫が定年になり、家にいることが多く、ストレスになる。夫はやることが見つからず可愛そう。食事は作らない。自分（妻）が食べるので作るとそれを食べている。

助言者 そんなにいやなら夫の分は作らなくていい。あなたが作るから夫はそれでいいとおもっている。

B・男の本音が出てくるとき。夫婦なら喧嘩をしてでも乗り越えられる。

C・夫は定年後、一緒に地域活動をやった。

地域ってこんなに面白いものかと。いきいきしていた。夫を邪魔にする人の気がしれない。

夫の葬儀を家族葬でやろうと思ったら、親戚から苦情がでた。

助言者 そういう男性は少数派。講座には男性の参加が多い。

葬儀については自分の意思を書いておくこと。書いたものがないと親族から異論がでる。どこの家でも相続はある。争族にならないよう遺言を書いておく。自筆（鉛筆はダメ）日付・署名捺印

助言者 ひとり住まいで自分の思いとおりにならない。友達がい

ない。近所の人とも交わらない人が認知症になりやすい。認知症や意識不明になる前に本人の人権や財産を守るために新しくできた制度、「成年後見制度」を活用するとよい。

助言者 ひとり住まいでも思いどおりにならない人もいる。

こどもには面倒かけられない。相談できる友達がいらない。近所の人とも交われない。

D・夫は死亡していない。40年勤務していて地域のことは何も知らなかった。

定年になり、健康に気をつけて自分の好きな事をやりながら生きていきたい。

C・高齢者大会に参加し、学習をするが行動をする人は少ない。

助言者 学習をしても驚きの心がないとダメ。学んで行動に変えていかないとダメ。集まりで高齢者同士話し合いをすることが大事。

申し合わせ事項

- 1・心ゆたかに健康で安心して暮らせるために医療・介護保険・年金の充実が必要です。
- 2・消費税に頼らない最低保障年金制度の確立を。
- 3・消費税増税反対。特に生活費には課税しないでください。
- 4・住み慣れた地域で暮らせる宅老所の設置も今後の課題として考えていきましょう。
- 5・ひとりぼっちの高齢者を孤立させないよう近隣の人たちとネットワークを広げていきましょう。

要望事項

- 1・後期高齢者医療制度の廃止を市が積極的に要望してください。
- 2・介護保険の利用時間短縮は利用者にとって非常に不安です。
- 3・ヘルパーの労働時間と移動時間の保障をしてください。
- 4・最低保障年金制度の確立と年金の引き下げをやめるよう国に要請してください。
- 5・生活を脅かす消費税の増税反対の声を国に届けてください。
- 6・国保料・介護保険料の値上げはしないでください。